2022年1月3日(月) 山陽新聞 [1面・16面]

山陽新聞賞 奨励賞

輝く8人2団体

第80回山陽新聞賞の受賞者が決まった。山陽新聞社が岡山、広島県で地域社会の発展に尽くした個人・団体に毎年贈っている。今年は文化功労3人、社会、教育、学術、産業功労各1人の計7人と、山陽新聞奨励賞の文化部門1人、社会部門2団体が栄誉に輝いた。晴れの受賞者を紹介する。

第80回 山陽新聞賞

山陽新聞社は毎年、文化、社会、教育、産業などの分野で、地域社会に貢献した個人、団体に「山陽新聞賞」「山陽新聞奨励賞」を贈り、功績をたたえています。

第80回は山陽新聞賞に個人7人、山陽新聞奨励賞に1人、2団体が決まりました。受賞者・団体には賞状、メダル（日本芸術院会員蛭田二郎氏制作）＝写真＝と賞金を贈ります。贈呈式は13日に岡山市内で開きます。（受賞者の業績は16、17面に掲載。敬称略）

地域への貢献たたえる

山陽新聞賞

文化
川端　文男（備前市）
楢村　徹（倉敷市）
藤川　翠香（倉敷市）

社会
山本　昌知（岡山市）

教育
椿原　彰夫（岡山市）

学術
前野　詩朗（岡山市）

産業
末長　範彦（岡山市）

山陽新聞奨励賞

文化
木口　雄人（オーストリア）

社会
特定非営利活動法人あかね（岡山市）
明王院を愛する会（福山市）

山陽新聞社

教育功労

川崎医療福祉大学長

椿原（つばはら）　彰夫（あきお）氏（68）

岡山市南区東畦

学生の学習意欲向上

医療と福祉の豊富な知識を兼ね備え、リーダーシップも発揮できる。そんな人材の育成を目指してきた。実習の重視、目標となる資格の設定…。学生の学習意欲を高める取り組みを重ねてきたのは、その一環だ。

兵庫県出身で1995年、川崎医療福祉大にリハビリテーション学科教授として着任。2013年から学長として教育の充実へ旗を振る。19年度、保健看護、リハビリテーションの2学部を新設して5学部（17学科）とし、看護師や理学療法士などを志す学生がより専門的に学べる環境を整えた。学生と教職員が学内の課題について話し合う場もつくった。

「いろんな意見を聞いて物事を進めようと心掛けている」。相手の思いに寄り添える人に―と学生に説き続けており、自ら姿勢を示したいと願う。研究者としては、病気などで食べ物をうまくのみ込めない「嚥下（えんげ）障害」のリハビリを主なテーマにしてきた。

超高齢化社会を迎え、医療・福祉分野の人材が果たす役割は高まっている。「優秀な即戦力を輩出し、地域に貢献していきたい」。その前段として、高校生に教育内容をPRする活動も強化したいという。（杉本明信）